

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持		○		
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>新型コロナウイルスによる影響が続くなか、展示会の開催、出展等を実施した工業団体に対して補助を行うことで、国内外のバイヤーや一般消費者に対して新たな販路開拓や当市地場産業をPRすることができた。</p> <p>展示会への出展を継続することで、当市企業や製品の認知度向上が期待され販路拡大にも繋がることから、今後も販路開拓や人材育成の分野についても支援が必要である。</p>
見直し・改善内容	<p>引き続き国内外での展示会や出展を行い、販路開拓を図るとともに和歌山ブランドの育成にも寄与する。</p> <p>今後、より効果的な販路開拓を図ることができる展示会への出展やその支援方法についても検討していく。</p> <p>また、人材育成には時間を要するため中長期にわたり支援を行っていく。</p>